

私たちはノレのよう

第1部 技能実習のひずみ ①



ともに はたらき
ともに いきる

トラクターのライトが放つ光の周辺で、淡い光が点々と闇夜に浮かぶ。八ヶ岳連峰と秩父山地に囲まれた標高千超の南佐久郡川上村。国内生産量トップを誇るレタスの収穫は、日光で葉が傷まぬよう、午前2時に始まる。出荷最盛期を迎えた2020年8月。仲間からヒューとの愛称で呼ばれるベトナム男性35は他の農作業員と同様、頭部に付けたランプで照らしながら、レタスの根元を包丁で切り続けた。作業は時間との闘いだ。手にしたレタスのサイズを確かめながら箱詰めし、トラックの荷台に載せる。「急げ、急げ」。一緒に未明から働く農場主の50代男性にせかれ、午前9時まで作業を続ける。

仕事はまだ終わらない。夕方まで、苗の植え付けや肥料

日本人と待遇差「切ない」

高原野菜産地で厳しい労働



高原野菜の収穫期を終えた川上村の畑を見つめるヒューさん
|| 2020年11月20日、川上村

やりなごをする。朝と昼に計3時間の休憩があるが、日中、睡眠に襲われる。作業中、うとうとしているや「やる気がないならやめろ」。農場主の大声が目覚める。夕方、プレハブ造りの寮に戻る。午後8時ごろに横になるが、なかなか寝付けない。「いつも寝不足」。それでも

翌日の午前1時半には起きなければならぬ。長袖シャツにジーンズ。雨がっぱを着ても体がぬれ、体温が奪われていく。村内の別の農場で働くベトナム人のティンさん(22)「仮名」は、20年7月の長雨にくじけそうに



7月から10月まで働き、休日は9月末に1日のみ。雨にさらされて赤くふやけ、痛みが走る羊先をさすりながら我慢した。

午前9時からの休憩時間に農場主がベトナム人3人に配るのも1人1個のパンだけ。一方、日本人には飲み物や数種類のパンが支給される。ある時、ベトナム人の同僚が問いつけた。「なぜ私たちにジュースはないんですか」。農場主は無言のままだった。



ヒューさんも、村内で働くベトナム人仲間から日本人との待遇の違いを聞かされていた。雨の日、早朝の作業に日本人アルバイトは出てこない。重い荷物は外国人が背負う。時給850〜900円余だが、日本人は千円以上……「切なく悲しい」

ベトナム人農作業員は他に2人。夕方、農機庫の2階にある3人1部屋の寮に引き上げた後も翌日用の段ボール箱を組み立てる。だが畑と一緒に働く日本人男性アルバイトがこの「残業」に加わることはほとんどない。日本人向けの宿舎は新しく、1人1部屋に住み込んでいる。「特別扱いなのか……」

ただ、それを表立って口にしえない理由があった。20年10月、許可なく南佐久郡内の農家でベトナム人を農作業に従事させたとして、大阪市のホアンアン合同会社の役員ら3人が職業安定法違反(無許可労働者供給事業)容疑で県警に逮捕、その後起



知る見 ホアンアン合同会社 起訴状によると、代表社員の柴田由起子被告ら3人は、新型コロナウイルスの影響で技能実習生が来日できず人手不足に陥った、南佐久郡川上村、南牧村などを含む佐久地域の農家に対し、国の許可を得ずに国内居住のベトナム人を送り込んだとしている。小諸労基署から労働基準法(中間搾取の排除)違反の疑いで書類送検され、佐久地域の農家約120戸に約230人のベトナム人をあつせんして、農家が支払う賃金から中間搾取し、総額約2100万円の利益を得た疑いも持たれている。2020年9月、南牧村の農家に派遣した元実習生ら2人が起こした傷害事件がきっかけとなり、本格的な捜査に発展した。

ご意見・情報をお寄せください
連載へのご意見、ご感想をお寄せください。情報提供もお待ちしております。
〒380-8546 長野市南県町657 信濃毎日新聞社編集局「五色のメビウス」取材班 (ファクス026・236・3017、メールはmoebius@shinmai.co.jp)

外国人技能実習制度は本来、国際貢献のため途上国の若者らを最長5年に限って受け入れ、技術を移転する制度だ。だが実際には、人手不足にあえぐ信州をはじめとする地方の中小企業や農業を人的に下支えする仕組みとなっている。建前と現実の間で生じる「ひずみ」は、新型コロナウイルス下でより目立つようになっている。第1部は、傷み、さまざま若者たちを追うことから始める。